

審査の結果の要旨

氏名 カーン タリク マハブブ

本論文は、バングラデシュの首都ダッカの旧市街地であるプレムガール地区を対象に、詳細な都市形成史分析を行い、その都市構造とその変遷を詳細に明らかにすることを目的としている。

従来、ダッカの都市形成に関しては、地図資料の制約からごく限られた一時資料を基に部分的な野外調査をもとにテーマを絞った分析がおこなわれているに過ぎなかった。これに対して、本論文では、プレムガール地区について悉皆的な踏査を実施し、詳細な地図資料を作成することを初めて実施し、その成果をもとに、ダッカ旧市街地の空間構造の主要な特質を明らかにし、その変遷がどのようなプロセスによっておこなわれてきたのか、に関して、主として近代 100 年の歴史をもとに実証的に明らかにすることを具体的な目的としている。

論文は 7 つの章から成っている。

第 1 章において、研究の目的・方法を明らかにするとともに、本論文で用いる主要概念の定義をおこない、本論文の構成を示している。

第 2 章では、都市の空間構造と社会構造の関係に関する既往研究をとりまとめている。

第 3 章は、ダッカの都市全体に関して、その物理的な発展過程を明らかにしている。都市発展の時期区分をプレムガール期、ムガール期、東インド会社期、英国支配期、パキスタン支配期、バングラデシュ独立期に分けて整理をしているほか、都市の形態学的分析、地形分析、空間分析などの各種手法によって、都市形成を多面的に論じている。

第 4 章は、同じくダッカの旧市街地全体を対象に社会構造の変化を中心に論じている。特にプレムガール期のヒンドゥー教、ムガール期のイスラム教、英国植民地時代のキリスト教という宗教上のコミュニティを軸に社会構造を捉えている。

第 5 章と第 6 章は、いずれもダッカの旧市街を対象に実地踏査をもとにした一次資料をもとに分析をおこなっており、本論文の中核をなす部分である。うち第 5 章は、第 4 章と同様の地区を対象に、物理的空間の構成要素分析とその変遷を明らかにしている。依拠している地図は 1859 年、1912 年、1970 年、及び 2006 年のものであり、これらを統一的な図面様式に転換し、現地調査によって修正を加えたものをベースとしている。建物用途別図や建物階数別図、建物建設時代別図などは悉皆調査によって新たに得られたデータをもとにしている。その結果、ダッカ旧市街の都市化のメカニズムが詳細に明らかにされた。

第 6 章は、ダッカ旧市街地の内部に関して、地区レベルでの変遷を調査した章である。文化的背景によって地区区分をおこない、主として宗教コミュニティによって 4 つの地区を選択して、詳細な個別プロットごとの建物空間に関する実態調査及びヒアリング調査をおこなっている。その結果、宗教的な背景によってその後の都市開発の形態に明確な差異が見られることを明らかにしている。

第 7 章は、これまでの成果をまとめ、地区レベルでの文化的同質性・異質性によって地区の境界領域の変遷に明確な差異がみとめられること、社会的な地区構造と空間的な地区構造とが相互に影響し合う状況を詳細に明らかにしている。

以上、本論文は、ダッカ旧市街地の歴史地図情報を駆使しつつ、実地踏査によって得られた一次資料を利用することによって、地域の空間特性がいかんして形成されてきたのか、そこに社会的特製がいかん相互的に影響を及ぼしあってきたかを詳細に明らかにしている。これらの作業はこれまでダッカに関しておこなわれたことがない、バングラデシュにおける先駆的研究として高く評価することができる。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。